



Informatica® Data Quality  
10.1.1 HotFix 2

# コンテンツインストールガイド

## Informatica Data Quality コンテンツインストールガイド

10.1.1 HotFix 2

2017 年 11 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2018

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

### NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対しても責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、[infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com) までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2018-07-02

# 目次

<b>序文</b>	<b>5</b>
Informatica のリソース	5
Informatica Network	5
Informatica ナレッジベース	5
Informatica マニュアル	5
Informatica 製品可用性マトリックス	6
Informatica Velocity	6
Informatica Marketplace	6
Informatica グローバルカスタマサポート	6
<b>第 1 章 : コンテンツのインストールの概要</b>	<b>7</b>
コンテンツの概要	7
Data Quality のコンテンツインストーラ	8
<b>第 2 章 : コンテンツのインストール</b>	<b>10</b>
インストールの概要	10
インストールの前提条件	10
一般的な前提条件	11
アドレス参照データの前提条件	11
ID ポピュレーションの前提条件	13
参照テーブルデータの前提条件	14
コンテンツインストーラの実行	15
Windows でのインストール	16
UNIX でのインストール	16
サイレントインストール	17
ルールとマッピングのインポート	17
アクセラレータのコンテンツの更新	18
<b>第 3 章 : アドレス参照データのインストール後の手順</b>	<b>20</b>
インストール後の作業の概要	20
アドレス参照データのプロパティの設定	20
アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細設定の確認	21
アドレス参照データファイルのステータスの確認	21
アドレス参照データのプロパティ	21
アドレス参照データのプリロードオプションに関するルールとガイドライン	24
アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細プロパティ	25
エイリアスの市区町村	25
エイリアス番地	25
大文字小文字表記	26
国	27

国のタイプ.....	27
デフォルトの国.....	28
住所重複時の優先順位.....	28
要素の略式表記.....	28
実行インスタンス数.....	29
フレキシブル範囲拡大.....	29
Geocode データ型.....	30
グローバル最大フィールド長.....	31
グローバル優先記述子.....	31
入力形式の種類.....	32
国を含む入力形式.....	32
行セパレータ.....	32
一致する代替用語.....	33
拡張アーカイブのマッチング.....	33
一致するスコープ.....	34
最大結果カウント.....	34
モード.....	34
最適化レベル.....	35
出力形式の種類.....	36
国を含む出力形式.....	36
優先される言語.....	36
優先されるスクリプト.....	42
拡大する範囲.....	42
無効なアドレスの標準化.....	43
トレースレベル.....	44
アドレス参照データファイルのステータス.....	44
<b>索引.....</b>	<b>45</b>

# 序文

『*Informatica* コンテンツインストールガイド』は、事前定義済みのルールと参照データを Informatica Data Quality または PowerCenter®にインストールする Informatica 製品の管理者を対象としています。

## Informatica のリソース

### Informatica Network

Informatica Network は、Informatica グローバルカスタマサポート、Informatica ナレッジベースなどの製品リソースをホストします。Informatica Network には、<https://network.informatica.com> からアクセスしてください。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ドキュメント、FAQ、ベストプラクティスなどの製品リソースをナレッジベースで検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

### Informatica ナレッジベース

ドキュメント、ハウツー記事、ベストプラクティス、PAM などの製品リソースを Informatica Network で検索するには、Informatica ナレッジベースを使用します。

ナレッジベースには、<https://kb.informatica.com> からアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム ([KB\\_Feedback@informatica.com](mailto:KB_Feedback@informatica.com)) です。

### Informatica マニュアル

使用している製品の最新のドキュメントを取得するには、[https://kb.informatica.com/\\_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx](https://kb.informatica.com/_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx) にある Informatica ナレッジベースを参照してください。

このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム ([infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com)) です。

## Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica Network メンバである場合は、PAM (<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>) にアクセスできます。

## Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスによって開発されたヒントおよびベストプラクティスのコレクションです。数多くのデータ管理プロジェクトの経験から開発された Informatica Velocity には、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識が集約されています。

Informatica Network メンバである場合は、Informatica Velocity リソース (<http://velocity.informatica.com>) にアクセスできます。

Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、[ips@informatica.com](mailto:ips@informatica.com) から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

## Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を強化したり拡張したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Informatica の開発者およびパートナーの何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスできます。

## Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。

# 第 1 章

## コンテンツのインストールの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [コンテンツの概要, 7 ページ](#)
- [Data Quality のコンテンツインストーラ, 8 ページ](#)

## コンテンツの概要

Data Quality および PowerCenter アプリケーションでは、ルールと参照データを使用して、データの精度を引き上げ、データの表記を標準化することができます。Informatica では、ルールおよび参照データを総称してコンテンツと呼びます。

Informatica では、次のタイプのコンテンツを配信します。

### アクセラレータ

アクセラレータは、ルール、参照テーブル、コンテンツセット、デモンストレーションマッピング、およびデモンストレーションデータオブジェクトを含むコンテンツバンドルです。各アクセラレータは、特定の国、地域、または業界の一般的なデータ品質の問題に対するソリューションを提供します。Data Quality のコンテンツインストーラには、一般的なデータ品質ルールを含む主要なアクセラレータが含まれています。追加のアクセラレータは別売りとなります。アクセラレータの詳細については、『*Data Quality アクセラレータガイド*』を参照してください。

### アドレス参照データファイル

アドレス参照データファイルには、国内の有効なアドレスすべてに関する情報が含まれています。アドレスバリデータ変換フォーマーションでは、アドレス参照データを使用して、選択した入力データの品質を分析します。入力データとアドレス参照データが比較され、入力データで見つかった誤りが修正されます。

アドレス参照データを利用するには、サブスクリプションを購入します。Informatica では、新しい郵便情報に基づいてアドレス参照データファイルを定期的に更新しています。サブスクリプションの期間内であれば、最新のアドレス参照データファイルをいつでもダウンロードすることができます。

### ID ポピュレーションファイル

ID ポピュレーションファイルには、個人 ID、世帯 ID、企業 ID のメタデータが含まれています。さらに、メタデータを入力データに適用するアルゴリズムも含まれています。一致変換フォーマーションおよび比較変換フォーマーションでは、このデータを使用して、入力フィールド内の ID の一致候補を解析します。

コンテンツインストーラには、アドレス参照データファイルおよび ID ポピュレーションファイルは含まれていません。コンテンツは別途購入する必要があります。各国のアドレス参照データは、サブスクリプションベースで購入します。

アドレス参照データ、ID ポピュレーションデータ、アクセラレータデモンストレーションデータをインストールするには、コンテンツインストーラの実行ファイルを使用します。Informatica Developer を使用して、アクセラレータルール、デモンストレーションマッピング、および参照テーブルメタデータをモデルリポジトリにインポートし、参照テーブルデータを参照データデータベースに書き込みます。

## Data Quality のコンテンツインストーラ

Data Quality コンテンツインストーラには、インストーラのファイルおよび主要なアクセラレータが含まれています。

コンテンツインストーラには次のディレクトリが含まれます。

- Accelerator\_Content
- Accelerator\_Sources
- インストーラ

### Accelerator\_Content ディレクトリ

Accelerator\_Content ディレクトリには、次の主要なアクセラレータコンポーネントが含まれます。

#### アクセラレータ XML ファイル

アクセラレータ XML ファイルには、ルール、デモンストレーションマッピング、参照データ、データオブジェクトなど、モデルリポジトリオブジェクトのメタデータが含まれます。Developer tool を使用して XML ファイルをインポートする場合、オブジェクトが Developer tool によってモデルリポジトリに追加されます。

#### 参照データファイル

参照データファイルの.zip ファイルには、カンマ区切り DIC 形式の参照データファイルが複数含まれています。アクセラレータ XML のインポートプロセスの一環として、Developer tool を使用してこの.zip ファイルをインポートします。インポートプロセスでは、参照データファイルを参照データデータベース内のデータベーステーブルに変換し、参照テーブルのメタデータをモデルリポジトリに書き込みます。

PowerCenter で参照データを使用したり、ルールを事前に作成するには、そのデータまたはルールを PowerCenter オブジェクトとしてモデルリポジトリからエクスポートします。

### Accelerator\_Sources ディレクトリ

Accelerator\_Sources ディレクトリには、次の主要なアクセラレータコンポーネントが含まれます。

#### デモンストレーションデータファイル

デモンストレーションデータ.zip ファイルには、デモンストレーションマッピングによってソースデータとして使用されるカンマ区切りデータファイルが含まれます。この.zip ファイルは、コンテンツインストーラを使用してインストールします。

### Installer ディレクトリ

Installer ディレクトリには以下の項目が含まれます。

#### コンテンツインストールファイル

コンテンツインストールファイルは、Windows および UNIX プラットフォームのサーバーディレクトリ内に、参照データとデータソースを書き込みます。サポートされているオペレーティングシステムごとに、専用の GUI、コンソール、サイレントインストーラがあります。各コンテンツインストーラは、アドレス参照データと ID ポピュレーションのファイルをファイルシステムに書き込むこともできます。



次の表に、Windows のファイル名を示します。

ファイル名	説明
Content_installer_server.exe	ユーザーインターフェースを使用してコンテンツをインストールする場合に使用します。
SilentInstall.bat	スケジュールされたプロセスの一環として実行する場合など、コンテンツインストーラをサイレントモードで実行する場合に使用します。
SilentInput.properties	SilentInstall.bat がサイレントモードでインストーラに提供するインストールプロパティを格納する場合に使用します。

次の表に、UNIX のファイル名を示します。

ファイル名	説明
Content_installer_server.bin	コンテンツをコンソールモードでインストールする場合に使用します。
SilentInstall.sh	スケジュールされたプロセスの一環として実行する場合など、コンテンツインストーラをサイレントモードで実行する場合に使用します。
SilentInput.properties	SilentInstall.sh がサイレントモードでインストーラに提供するインストールプロパティを格納する場合に使用します。

### インストーラのプロパティファイル

SilentInput.properties ファイルには、サイレントインストールプロセスに必要なインストールのパラメータが含まれています。このファイルを編集してから、サイレントインストーラを実行します。

## 第 2 章

# コンテンツのインストール

この章では、以下の項目について説明します。

- [インストールの概要, 10 ページ](#)
- [インストールの前提条件, 10 ページ](#)
- [コンテンツインストーラの実行, 15 ページ](#)
- [ルールとマッピングのインポート, 17 ページ](#)
- [アクセラレータのコンテンツの更新, 18 ページ](#)

## インストールの概要

アクセラレータルール、デモンストレーションマッピング、および参照テーブルをモデルリポジトリにインポートし、参照テーブルデータを参照データデータベースに書き込むには、Informatica Developer を使用します。住所参照データ、ID ポピュレーション、およびアクセラレータデモンストレーションデータをインストールするには、コンテンツインストールファイルを使用します。

アドレス参照データファイルおよび ID ポピュレーションファイルをインストールするときは、それらのファイルをインストールするマシンに Integration Service からアクセスできることを確認します。アドレス参照データファイルおよび ID ポピュレーションファイルを Informatica ドメインにインストールします。インストーラに戻り、ファイルを追加するか、既存のファイルを更新します。

事前作成された Informatica ルールまたは参照データファイルのセットのインポートは、モデルリポジトリと参照データデータベースに対して一度だけ行います。複数の Developer ツールユーザーまたは Analyst ツールユーザーによってルールまたはデータファイルのインポートが実行される場合、データはそのたびに上書きされるか、同じシステム上の異なるフォルダにインストールされます。

**注:** アクセラレータの参照データはすべて、モデルリポジトリ内の 1 つのプロジェクトにインストールする必要があります。

## インストールの前提条件

コンテンツをインストールする前に、以下の前提条件を満たしているか確認します。

## 一般的な前提条件

コンテンツをインストールする前に、Informatica Data Quality または PowerCenter のインストールを完了しておく必要があります。

インストールするファイルのパスを把握しておく必要があります。圧縮ファイルのパス、および圧縮ファイルを含むディレクトリのパスを指定する必要があります。

**注:** コンテンツインストーラを実行する場合、圧縮されていないファイルを選択しないでください。

## アドレス参照データの前提条件

アドレス参照データは、Informatica Data Quality または PowerCenter をインストールしてから、それらのいずれかの製品にインストールします。

PowerCenter のアドレス参照データをインストールするときは、PowerCenter 統合サービスを事前に停止しておきます。Data Quality のアドレス参照データをインストールするときは、データ統合サービスとコンテンツ管理サービスを事前に停止しておきます。データをインストールした後、停止したサービスを再開します。アドレス参照データのインストール時にサービスの停止と再開を行わない場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションでは、メモリに格納されている古いデータが引き続き実行されます。

アドレスバリデータトランスフォーメーションは次のアドレス参照データの種類を読み取ることができます。

### アドレスコードルックアップデータ

アドレスコードルックアップデータをインストールして、入力ポートのコード値から部分的なアドレスまたはアドレス全体を取得します。アドレスの完全性は、アドレスが属する国のアドレスコードサポートのレベルによって決まります。入力アドレスからアドレスコードを読み取るには、[個別] ポートグループで国固有のポートを選択します。

次の国のポートを選択できます。

- ドイツ。市区町村、地方自治体、または番地レベルで住所を返します。
- 日本。一意のメールボックスレベルで住所を返します。
- 南アフリカ。番地レベルで住所を返します。
- 韓国。一意のメールボックスレベルで住所を返します。
- セルビア。番地レベルで住所を返します。
- 英国。一意のメールボックスレベルで住所を返します。

アドレスコードルックアップモードで実行されるようにトランスフォーメーションを設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションはアドレスコードルックアップデータを読み取ります。

### バッチデータと対話データ

バッチデータと対話データをインストールし、アドレスレコードのセットに対してアドレス検証を実行します。バッチデータと対話データを使用し、国の郵政事業者の現行の郵便データに基づき、入力アドレスが配送可能であり、完全であることを確認します。

バッチモードで実行するようにトランスフォーメーションを設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは入力アドレスごとに 1 つのアドレスを返します。対話モードで実行するようにトランスフォーメーションを設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは入力アドレスごとに 1 つ以上のアドレスを返します。

### CAMEO データ

CAMEO データをインストールし、カスタマセグメント化データを居住地レコードに追加します。カスタマセグメント化データは、住所ごとに居住者の推定収入レベルと希望の生活様式を示しています。

トランスフォーメーションをバッチモードまたは認証モードで実行するように設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは CAMEO データを読み込みます。

### 認証データ

認証データをインストールし、郵政事業者が定義する認証基準にアドレスレコードが一致することを確認します。配送ポイントデータ要素など、一意のメールボックスを識別できるデータ要素を含む場合、アドレスは認証基準を満たします。アドレスが認証基準を満たすとき、郵政事業者は配送料を割り引きます。

次の国は認証基準を定義しています。

- オーストラリア AMAS (Address Matching Approval System/住所照合承認システム) 基準で郵便を認証します。
- カナダ SERP (Software Evaluation And Recognition Program/評価と認識のソフトウェアプログラム) 基準で郵便を認証します。
- フランス SNA (Service National de l'Adresse/国の住所サービス) 基準で郵便を認証します。
- ニュージーランド SendRight 基準で郵便を認証します。
- 米国。CASS (Coding Accuracy Support System/符号化精度支援システム) 基準で郵便を認証します。

トランスフォーメーションを認証モードで実行するように設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは認証データを読み込みます。

### ジオコードデータ

ジオコードデータをインストールし、アドレスレコードにジオコードを追加します。ジオコードは緯度と経度の座標です。

トランスフォーメーションをバッチモードまたは認証モードで実行するように設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは geocode データを読み込みます。

**注:** Informatica はさまざまなタイプのジオコードデータを提供しています。到着点、区画の中心、またはルーフトップのジオコードが必要な場合は、ジオコードデータセットを追加で購入する必要があります。

### 提案リストデータ

提案リストをインストールし、部分的なアドレスレコードの有効な代替バージョンを見つけます。アドレスレコードをリアルタイムで 1 つずつ処理するようにアドレス検証マッピングを設定する場合に、提案リストのデータを使用します。アドレスバリデータトランスフォーメーションでは、部分的なアドレスのデータ要素を使用し、提案リストデータで重複チェックを実行します。トランスフォーメーションは、部分的なアドレス内の情報を含む有効なアドレスを返します。

トランスフォーメーションを提案リストモードで実行するように設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは提案リストデータを読み込みます。

### 補足データ

補足データをインストールし、郵政事業者の郵便配達を支援できるアドレスレコードにデータを追加します。補足データを使用して、住所を含む地理的領域または郵便区域についての情報を追加します。国によっては、補足データで郵便システム内のメールボックスに対する一意の識別子を提供できます。

トランスフォーメーションをバッチモードまたは認証モードで実行するように設定した場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは補足データを読み込みます。

**注:** 国認識モードまたは解析モードではアドレス参照データは読み取られません。

## アドレス参照データに関するルールとガイドライン

Informatica では、新しいバージョンのアドレス参照データファイルを定期的にリリースしています。特定の国のアドレス参照データをサブスクライブすると、その国の最新のデータファイルをいつでもダウンロードしてインストールすることができます。

アドレス参照データを使用するときは、次に挙げるルールとガイドラインを考慮してください。

- アドレス参照データのインストール中は、アドレス検証のマッピングやセッションを実行しないでください。
- アドレス参照データは、Informatica の Address Doctor 部門がリリースしています。Address Doctor では、各国の郵便事業者と連携してアドレス参照データを開発しています。郵便事業者のデータレコードが新しい情報に更新されると、Address Doctor では、対応する国のアドレス参照データファイルにその情報を追加します。
- Address Doctor は、アドレス参照データファイルを年に数回更新します。Informatica は最新の更新がダウンロードできるようになったことを、電子メールで毎月お知らせいたします。

### アドレスの認証に関する考慮事項

アドレスバリデータトランスフォーメーションでは、各国の郵便事業者の認証基準で必要とされるデータがアドレスに含まれているかどうかを示すことができます。これらの基準では、郵便物の仕分けと配達を自動化するために、ソフトウェアアプリケーションでアドレスの正確さを検証し、アドレスレコードを適切なフォーマットで準備するように要求しています。認証された検証プロセスのデータを使用する場合は、アドレス参照データファイルを月に一度更新してください。

米国またはカナダのアドレス参照データを使用して Coding Accuracy Support System (CASS) または Software Evaluation and Recognition Program (SERP) の基準に適合するアドレスレコードを認証する場合は、更新後の日数が 60 日以内の参照データを使用する必要があります。

## ID ポピュレーションの前提条件

ID ポピュレーションファイルは、Informatica サービスがアクセスできる場所にインストールします。

Data Quality のインストールで、データ統合サービスはポピュレーションファイルを読み取ります。ファイルは、データ統合サービスホストマシンか、データ統合サービスがアクセスできるマシンの共有ディレクトリにインストールします。PowerCenter のインストールで、PowerCenter 統合サービスはポピュレーションファイルを読み取ります。ファイルは、PowerCenter 統合サービスホストマシンか、PowerCenter 統合サービスがアクセスできるマシンの共有ディレクトリにインストールします。

Informatica Data Quality は、コンテンツ管理サービスの *[参照データの場所]* プロパティに、ポピュレーションファイルディレクトリのパスを格納します。管理者ツールを使用してパスを検証または編集します。

PowerCenter は、*[IdentityReferenceDataLocation]* プロパティ (IDQTx.cfg 構成ファイル内) に、ポピュレーションファイルディレクトリのパスを格納します。ファイルを開き、パスを確認または編集します。

ID ポピュレーションファイルをインストールする前に、以下のルールとガイドラインに従います。

- コンテンツインストーラは、データ統合サービス用マシンの次のディレクトリにポピュレーションファイルを書き込みます。

```
<Informatica_installation_directory>/services/DQContent/INFA_Content/identity/default
```

コンテンツインストーラを起動する前に、/default/ディレクトリが存在することを確認します。ポピュレーションファイルを読み取るマッピングを作成する前に、コンテンツ管理サービスの *[参照データの場所]* プロパティで/default/ディレクトリの親ディレクトリが指定されていることを確認します。

- コンテンツインストーラは、PowerCenter 統合サービス用マシンの次のディレクトリにポピュレーションファイルを書き込みます。

```
<Informatica_installation_directory>/services/DQContent/INFA_Content/identity/default
```

コンテンツインストーラを起動する前に、/default/ディレクトリが存在することを確認します。ポピュレーションファイルを読み取るセッションを実行する前に、`[IdentityReferenceDataLocation]`プロパティ (IDQTx.cfg ファイル内) で/default/ディレクトリの親ディレクトリが指定されていることを確認します。

PowerCenter インストーラは IDQTx.cfg ファイルを次のパスに書き込みます。

<Informatica\_installation\_directory>/server/bin

- 旧バージョンの PowerCenter では、ポピュレーションファイルへのパスを *SSAPR* 環境変数から読み取ります。PowerCenter 統合サービスでは、ポピュレーションファイルの場所を IDQTx.cfg ファイルまたは *SSAPR* 環境変数から読み取ります。デフォルトでは、PowerCenter 統合サービスは IDQTx.cfg ファイルからその場所を読み取ります。IDQTx.cfg ファイルで場所が指定されていない場合、またはファイルが存在しない場合、PowerCenter 統合サービスは、場所を *SSAPR* 環境変数から読み取ります。
- IDQTx.cfg ファイルおよび *SSAPR* 環境変数は、/default/ディレクトリの親ディレクトリのパスを指定します。パスに/default/ディレクトリ名は含まれません。パスにスペース文字を含めることはできません。
- 現在のバージョンのポピュレーションファイルは、現在のバージョンの Informatica Data Quality および PowerCenter で使用できます。現在のポピュレーションファイルを旧バージョンの PowerCenter で使用するには、現在のバージョンの Data Quality 統合プラグインを PowerCenter にインストールします。

**注:** 現在のプラグインを PowerCenter マシンにインストールすると、オブジェクトは古いモデルリポジトリから PowerCenter リポジトリにインポートできません。PowerCenter リポジトリにインポートしたデータ品質オブジェクトは、現在のプラグインをインストールするまで引き続き使用できます。

## 参照テーブルデータの前提条件

参照データをインポートする前に、データ統合サービス、モデルリポジトリサービス、およびコンテンツ管理サービスが実行されていることを確認してください。また、参照データを格納するデータベースが大文字と小文字が混在したカラム名をサポートしていることも確認してください。

参照データデータベースを単一のモデルリポジトリに関連付けます。複数のコンテンツ管理サービスが同じモデルリポジトリを識別する場合は、これらのコンテンツ管理サービスで同じ参照データデータベースを指定できます。

参照データデータベースは、以下のリレーショナルデータベースシステムで作成できます。

- IBM DB2
- Microsoft SQL Server
- Oracle

データベース用に 200 MB のディスク容量が必要です。

**注:** コンテンツ管理サービスを実行する必要があるマシンにデータベースクライアントをインストールしてください。

データベース設定の詳細については、データベースシステムのマニュアルを参照してください。

## IBM DB2 データベースの要件

IBM DB2 でリポジトリを設定するときには、次のガイドラインに従ってください。

- データベースユーザーアカウントに、CREATETAB および CONNECT 特権があることを確認します。
- データベースユーザーが SYSCAT.DBAUTH および SYSCAT.DBTABAUTH テーブルに対する SELECT 特権を持っていることを確認します。
- Informatica では、リポジトリテーブルの IBM DB2 テーブルエイリアスはサポートされません。データベース内でテーブルのテーブルエイリアスが作成されていないことを確認します。
- テーブルスペースの pageSize パラメータを 32768 バイトに設定します。

- NPAGES パラメータを 5000 以上に設定します。NPAGES パラメータによって、テーブルスペース内のページ数が決まります。

## Microsoft SQL Server データベースの要件

Microsoft SQL Server でリポジトリを設定する場合は、次のガイドラインを使用します。

- データベースユーザーアカウントに、CONNECT および CREATE TABLE 特権があることを確認します。

## Oracle データベースの要件

Oracle でリポジトリを設定する場合は、次のガイドラインに従います。

- データベースユーザーが次の特権を持っていることを確認してください。

```
ALTER SEQUENCE
ALTER TABLE
CREATE SEQUENCE
CREATE SESSION
CREATE TABLE
CREATE VIEW
DROP SEQUENCE
DROP TABLE
```

- Informatica では、リポジトリテーブルの Oracle パブリックシノニムはサポートされません。データベース内でテーブルのパブリックシノニムが作成されていないことを確認します。

## 大文字と小文字が混在したカラム名に対するサポートのステータスの確認

大文字と小文字が混在したカラム名が参照データデータベースでサポートされているかどうかを確認するには、Administrator ツールを使用します。

1. Administrator ツールにログインします。
2. **【ドメイン】** タブを選択し、**【接続】** を選択します。
3. 参照データデータベースを選択します。
4. データベースの **【詳細接続プロパティ】** を確認します。
5. **【大文字と小文字が混在する識別子をサポート】** が true に設定されていることを確認します。  
そのように設定されていない場合は、プロパティを編集します。

# コンテンツインストーラの実行

アドレス参照データファイル、ID ポピュレーションファイル、アクセラレータデモンストレーションデータファイルをインストールするには、インストーラファイルを実行します。ファイルは Data Quality または PowerCenter にインストールできます。Integration Service からアクセスできるマシンにインストールしてください。

Informatica から新しいコンテンツをダウンロードしたときは、必ずインストーラを実行します。インストーラの実行前に古いファイルをアンインストールする必要はありません。インストーラを実行すると、同じ名前の新しいファイルで古いファイルが上書きされます。

例えば、バッチ/対話型の形式の米国のアドレス参照データをダウンロードしたら、コンテンツインストーラを実行して、ダウンロードしたファイルを選択します。その後に、米国のアドレスの地理的コーディングのデータをダウンロードした場合は、コンテンツインストーラをもう一度実行して、ダウンロードした地理的コーディングのファイルを選択します。

アドレス参照データをインストールした後は、インストール後の手順についても必ず確認してください。アドレス参照データのインストール後の手順については、[「インストール後の作業の概要」 \(ページ 20\)](#)を参照してください。

## Windows でのインストール

アドレス参照データ、ID ポピュレーションデータ、またはデモンストレーションデータファイルを Windows マシンにインストールする手順

1. コンテンツインストーラの.zip ファイルを展開します。
2. Installer ディレクトリを開き、Content\_installer\_server.exe を実行します。  
インストールウィザードが起動します。
3. Informatica サーバーインストールのルートディレクトリのパスを入力します。このディレクトリは、リモートディレクトリである場合もあります。  
必要に応じて、このディレクトリに移動します。
4. アドレス参照データファイルをインストールする場合は、これらのファイルの書き込み先となるサーバーディレクトリのパスを入力します。  
必要に応じて、このディレクトリに移動します。
5. **【次へ】** をクリックします。
6. 圧縮された参照データファイルを参照して選択するか、参照データファイルが含まれているディレクトリに移動し、**【次へ】** をクリックします。  
ファイルパスとディレクトリパスは、複数指定することもできます。
7. インストール前の要約情報を確認し、**【インストール】** をクリックします。  
システムにデータが追加されます。
8. インストール後の情報を確認し、**【完了】** をクリックします。

## UNIX でのインストール

アドレス参照データ、ID ポピュレーションデータ、またはデモンストレーションデータファイルを UNIX マシンにインストールする手順

1. コンテンツインストーラの.zip ファイルを展開します。  
必要に応じて Installer ディレクトリを UNIX マシンにコピーします。
2. Installer ディレクトリを開き、Content\_installer\_server.bin を実行します。
3. インストールする参照データのタイプを指定します。  
コンテンツ CD から参照データをインストールする場合は、1 と入力します。  
アドレス参照データまたは ID ポピュレーションデータをインストールする場合は、2 と入力します。  
両方のタイプのデータをインストールする場合は、3 と入力します。
4. Informatica サーバーインストールのルートディレクトリのパスを入力します。
5. アドレス参照データファイルをインストールする場合は、これらのファイルの書き込み先となるサーバーディレクトリのパスを入力します。



6. 圧縮された参照データファイルへのパス、または参照データファイルが含まれているディレクトリへのパスを入力します。  
ファイルパスとディレクトリパスは、カンマで区切りのリスト形式で複数指定することもできます。リストにはスペースを含めないでください。
7. インストール前の要約情報を確認します。  
システムにデータが追加されます。
8. インストール後の情報を確認し、インストーラを終了します。

## サイレントインストール

コンテンツインストーラをサイレントモードで実行できます。Installer ディレクトリにある `SilentInput.properties` ファイルでインストールパラメータを定義します。サイレントインストーラを実行するすべてのユーザーにこのディレクトリを配布します。

ユーザーは Installer ディレクトリのサイレントインストーラファイルを実行します。Windows システムでは、サイレントインストーラファイルは `SilentInstall.bat` です。UNIX システムでは、サイレントインストーラファイルは `SilentInstall.sh` です。

サイレントインストール用の `properties` ファイルを準備する手順

1. コンテンツ CD イメージ上の Installer ディレクトリを開きます。
2. `SilentInput.properties` を開きます。
3. 次の表に示すプロパティを、参照データを使用する Informatica ドメインに設定します。

プロパティ	説明
<code>USER_INSTALL_DIR</code>	Informatica Data Quality または PowerCenter のルートディレクトリへのパス。
<code>USER_SELECTIONS</code>	参照データファイルまたはディレクトリのカンマ区切りリスト。このリストにはスペースを含めることはできない。
<code>UID_EXTRACTION_FLAG</code>	インストーラがコンテンツ CD イメージから参照データを抽出するかどうかを指定する。データを抽出する場合は 1 を設定する。
<code>AV_EXTRACTION_FLAG</code>	インストーラが <code>AV_INSTALL_DIR</code> で指定された場所にアドレス参照データファイルを抽出するかどうかを指定する。データを抽出する場合は 1 を設定する。
<code>AV_INSTALL_DIR</code>	アドレス参照データが含まれるディレクトリへのパス。

4. ファイルを保存します。

## ルールとマッピングのインポート

Developer tool を使用して、ルール、デモンストレーションマッピング、およびマッピングデータソースのメタデータをインポートします。インポート操作中に、ルールとマッピングが使用する参照データファイルを選択します。

1. Developer ツールで、メタデータのターゲットプロジェクトを含むモデルリポジトリに接続します。

2. オブジェクトエクスプローラで、ターゲットプロジェクトを選択します。  
例えば、*Informatica\_DQ\_Content* プロジェクトを選択します。必要に応じて、モデルリポジトリでプロジェクトを作成します。
3. **【ファイル】** > **【インポート】** を選択します。
4. **【インポート】** ダイアログボックスで、**【Informatica】** > **【オブジェクトメタデータファイルのインポート（詳細）】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
6. アクセラレータディレクトリ構造で、XML メタデータファイルに移動してファイルを選択します。
7. **【開く】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
8. **【ソース】** ペインで、プロジェクトノードの下に表示される項目を選択します。
9. **【ターゲット】** ペインで、ターゲットプロジェクトを選択します。
10. **【ターゲットに追加】** をクリックします。
  - 追加するオブジェクトがリポジトリプロジェクトに含まれる場合、Developer tool からそのオブジェクトを現在のオブジェクトにマージするように求められます。**【はい】** をクリックしてオブジェクトをマージします。
  - Developer tool からオブジェクトの名前を変更するように求められたら **【いいえ】** をクリックします。
  - **【ソース】** ペインにオブジェクトが残っている場合は、ポインタを使用してオブジェクトをターゲットプロジェクトに移動します。
11. **【次へ】** をクリックします。
12. アクセラレータディレクトリ構造で、圧縮された参照データファイルに移動してファイルを選択します。
13. **【開く】** をクリックします。
14. コードページが UTF-8 であることを確認し、**【次へ】** をクリックします。
15. **【ターゲット接続】** フィールドで、参照データデータベースを選択します。
16. **【完了】** をクリックします。

## アクセラレータのコンテンツの更新

Developer ツールを使用して、アクセラレータの最新のルール、デモンストレーションマッピング、および参照テーブルをインポートします。インポート操作中、ルールとマッピングが使用する参照データファイルを選択します。

1. Developer ツールで、メタデータのターゲットプロジェクトを含むモデルリポジトリに接続します。
2. Object Explorer で、ターゲットプロジェクトを選択します。
3. **【ファイル】** > **【インポート】** を選択します。
4. **【インポート】** ダイアログボックスで、**【Informatica】** > **【オブジェクトメタデータファイルのインポート（詳細）】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
6. アクセラレータディレクトリ構造の XML メタデータファイルを参照し、ファイルを選択します。
7. **【開く】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
8. **【ソース】** ペインで、プロジェクトで更新する項目を選択します。項目は、プロジェクトノードの下に表示されます。

9. **【ターゲット】** ペインで、ターゲットプロジェクトを選択します。
10. **【ターゲットに追加】** をクリックします。

ダイアログボックスで、選択したオブジェクトをモデルリポジトリの現在のオブジェクトにマージするよう求められます。**【はい】** をクリックします。

ダイアログボックスで、モデルリポジトリオブジェクト名との競合のため、オブジェクトの名前を変更するよう求められます。**【いいえ】** をクリックします。
11. **【ターゲットへの自動一致】** をクリックします。
12. **【解決】** セクションで、**【ターゲットのオブジェクトを上書きする】** を選択します。
13. **【次へ】** をクリックします。

Developer ツールで、オブジェクトの依存関係が計算されます。
14. **【次へ】** をクリックします。
15. **【参照】** をクリックして参照データを追加します。アクセラレータディレクトリ構造で圧縮された参照データファイルを検索し、ファイルを選択します。
16. **【開く】** をクリックします。
17. コードページが UTF-8 であることを確認し、**【次へ】** をクリックします。
18. **【ターゲット接続】** フィールドで選択矢印をクリックし、参照データデータベースを選択します。
19. **【完了】** をクリックします。

## 第 3 章

# アドレス参照データのインストール後の手順

この章では、以下の項目について説明します。

- [インストール後の作業の概要, 20 ページ](#)
- [アドレス参照データのプロパティ, 21 ページ](#)
- [アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細プロパティ, 25 ページ](#)
- [アドレス参照データファイルのステータス, 44 ページ](#)

## インストール後の作業の概要

Data Quality または PowerCenter のアドレス参照データをインストールした後、アドレス検証のマッピングまたはセッションの実行時に Integration Service で使用するアドレス参照データのプロパティを設定する必要があります。

また、Developer ツールでアドレス参照データの設定を確認したり編集したりすることもできます。

## アドレス参照データのプロパティの設定

Data Quality または PowerCenter のアドレス参照データをインストールしたら、アドレス参照データのプロパティを設定します。

アドレス参照データのライセンスキー、およびアドレス参照データファイルのパスを指定します。また、Integration Service への参照データの読み込み方法を指定します。

Data Quality のアドレス参照データをインストールする場合は、Administrator ツールを使用して Content Management Service でプロパティを設定します。PowerCenter のアドレス参照データをインストールする場合は、AD50.cfg ファイルでプロパティを設定します。

### アドレス参照データのインストール

アドレス参照データをインストールした後、Content Management Service または AD50.cfg ファイルで、ライセンスプロパティにデータのライセンスキーを追加します。複数のタイプのアドレス参照データをインストールする場合は、各タイプのライセンスキーをカンマで区切って追加します。

後で追加の参照データファイルをインストールする場合は、新しいファイルのライセンスキーを指定してライセンスキーデータプロパティを追加します。ライセンスキーデータをカンマで区切って指定します。

## アドレス参照データの更新

インストール済みの特定の国のアドレス参照データを更新するときは、新しいライセンスキーを入力する必要はありません。その国のデータのサブスクリプションの期限が切れた場合は、ライセンスキーを変更します。

## アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細設定の確認

Data Quality のアドレス参照データをインストールした後、アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細設定を確認します。

それらの設定を編集することで、アドレス検証マッピングでのソースデータの処理がプロジェクトに適した正しい方法で行われるようにすることができます。詳細設定はトランスフォーメーションの「詳細」タブにあります。

## アドレス参照データファイルのステータスの確認

Data Quality のアドレス参照データをインストールした後、データファイルのステータスを確認します。

接続しているドメインにあるアドレス参照データファイルのリストを表示することができます。ファイルのライセンスが適切であること、およびアドレスバリデータトランスフォーメーションで設定した処理モードに対応するファイルタイプであることを確認します。ファイルのリストは、Developer tool を使用して表示できます。

**注:** アドレス参照データファイルのステータスはいつでも確認できます。ステータスを定期的に確認して、インストールされているアドレス参照データが最新のものであることを確認してください。

## アドレス参照データのプロパティ

アドレス検証のマッピングまたはセッションを実行すると、アドレス参照データのプロパティが Integration Service に読み込まれます。

Data Quality でアドレス検証マッピングを実行する場合は、Content Management Service で設定したアドレス参照データのプロパティが Integration Service に読み込まれます。Content Management Service のプロパティは、Administrator ツールを使用して設定します。PowerCenter でアドレス検証セッションを実行する場合は、アドレス参照データのプロパティが AD50.cfg ファイルから Integration Service に読み込まれます。このプロパティは、AD50.cfg ファイルを探して設定します。

アドレス検証のマッピングまたはセッションを実行する前に、ライセンスキー、参照データの場所、およびデータの事前ロード値を少なくとも 1 つ入力する必要があります。必要に応じて、その他のプロパティの値を入力することもできます。

**注:** アドレス参照データのプロパティの名前は、AD50.cfg ファイルと Content Management Service で対応しています。ただし、AD50.cfg では、スペースが省略された英語表記のプロパティ名が使用されています。例えば、Content Management Service で、[最大アドレスオブジェクト数] (Max Address Object Count) というプロパティを設定できます。これに対応する AD50.cfg のプロパティは MaxAddressObjectCount です。

次の表に、アドレス参照データのプロパティを示します。

プロパティ	説明
ライセンス	検証の参照データを有効にするためのライセンスキー。例えば、バッチ参照データや地理的コーディング参照データを使用する場合などには、複数のキーを持つことができます。カンマで区切られたリストとして、キーを入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。
参照データの場所	アドレス参照データファイルの場所。ファイルのフルパスを入力します。すべてのアドレス参照データファイルを単一の場所にインストールします。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。
事前に全体をロードする国	<p>アドレス検証の開始前にバッチ、CAMEO、認証、対話、または補足タイプの参照データをすべてメモリにロードする国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットをロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>参照データベース全体をロードすると、パフォーマンスが向上します。米国などの国には、大量のメモリを必要とする大きなデータベースがあります。</p>
事前に一部をロードする国	<p>アドレス検証の開始前にバッチ、CAMEO、認証、対話、または補足タイプの参照メタデータとインデックス構造をメモリにロードする国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットを部分的にロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>データベース全体をメモリにロードするのに十分なメモリがない場合は、事前に一部をロードするとパフォーマンスが向上します。</p>
事前にロードしない国	アドレス検証の開始前にバッチ、CAMEO、認証、対話、または補足タイプの参照データをメモリにロードしない国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。デフォルトは ALL です。
地理的コーディング全体を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、すべての地理的コーディング参照データがメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットをロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>特定の国のアドレスを処理する場合は、その国のすべての参照データをロードするとパフォーマンスが向上します。米国などの国には、大量のメモリを必要とする大きなデータセットがあります。</p>
地理的コーディングの一部を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、地理的コーディング参照メタデータおよびインデックス構造がメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットを部分的にロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>データベース全体をメモリにロードするのに十分なメモリがない場合は、事前に一部をロードするとパフォーマンスが向上します。</p>
地理的コーディングを事前にロードしない国	アドレス検証が開始される前に、地理的コーディング参照データがメモリにロードされない国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。デフォルトは ALL です。
提案リスト全体を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、すべての提案リスト参照データがメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットをロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>参照データベース全体をロードすると、パフォーマンスが向上します。米国などの国には、大量のメモリを必要とする大きなデータベースがあります。</p>

プロパティ	説明
提案リストの一部を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、提案リスト参照メタデータおよびインデックス構造をメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットを部分的にロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>データベース全体をメモリにロードするのに十分なメモリがない場合は、事前に一部をロードするとパフォーマンスが向上します。</p>
提案リストを事前にロードしない国	<p>アドレス検証が開始される前に、提案リスト参照データがメモリにロードされない国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。デフォルトは ALL です。</p>
アドレスコード全体を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、すべてのアドレスコードルックアップ参照データがメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットをロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>参照データベース全体をロードすると、パフォーマンスが向上します。米国などの国には、大量のメモリを必要とする大きなデータベースがあります。</p>
アドレスコードの一部を事前にロードする国	<p>アドレス検証が開始される前に、アドレスコードルックアップ参照メタデータとインデックス構造がメモリにロードされる国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。すべてのデータセットを部分的にロードする場合は、「ALL」と入力します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。</p> <p>データベース全体をメモリにロードするのに十分なメモリがない場合は、事前に一部をロードするとパフォーマンスが向上します。</p>
アドレスコードを事前にロードしない国	<p>アドレス検証が開始される前に、アドレスコードルックアップ参照データがメモリにロードされない国のリスト。3 文字の ISO 国コードをコンマ区切りリストで入力します。例えば、「DEU,FRA,USA」と入力します。デフォルトは ALL です。</p>
事前にロードする方法	<p>データ統合サービスでアドレス参照データをメモリに事前にロードする方法を決定します。MAP メソッドと LOAD メソッドの両方を使用してメモリブロックを割り当て、参照データをそのブロックに読み込みます。ただし、MAP メソッドでは複数のプロセス間で参照データを共有できます。デフォルトは MAP です。</p>
最大結果カウント	<p>提案リストモードでアドレス検証によって返される住所の最大数。1 から 100 の範囲で最大数を設定します。デフォルトは 20 です。</p>
メモリの使用	<p>アドレス検証ライブラリのファイルで割り当てることができるメモリの容量（メガバイト）。デフォルトは 4096 です。</p>
最大アドレスオブジェクト数	<p>同時に実行されるアドレス検証インスタンスの最大数。デフォルトは 3 です。データ統合サービスの「最大並行処理」の値以上の値を設定します。</p>
最大スレッド数	<p>アドレス検証で使用できる最大スレッド数。マシン上で利用可能なコアまたはスレッドの全体数を設定します。デフォルトは 2 です。</p>



プロパティ	説明
キャッシュサイズ	<p>事前にロードされていないデータベースのキャッシュサイズ。事前にロードされていない参照データ内のルックアップのパフォーマンスを向上させるためにキャッシュでメモリが保持されます。</p> <p>すべての参照データが事前にロードされている場合や使用するメモリ容量を削減する必要がある場合を除き、キャッシュのサイズは <code>LARGE</code> に設定します。</p> <p>キャッシュサイズに関する以下のいずれかのオプションを大文字で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- <code>NONE</code>。キャッシュがありません。すべての参照データベースが事前にロードされている場合は、「<code>NONE</code>」と入力します。</li> <li>- <code>SMALL</code>。キャッシュサイズが削減されています。</li> <li>- <code>LARGE</code>。標準的なキャッシュサイズです。</li> </ul> <p>デフォルトは <code>LARGE</code> です。</p>
SendRight レポートの場所	<p>アドレス検証マッピングによって SendRight レポートとレポートに関連するログファイルが書き込まれる場所。SendRight レポートを生成して、一連のニュージーランドの住所レコードが New Zealand Post の認証基準を満たすことを確認します。マッピングを実行するデータ統合サービスをホストするマシン上のローカルパスを入力します。</p> <p>デフォルトでは、アドレス検証によってレポートファイルが Informatica インストールディレクトリの <code>bin</code> に書き込まれます。相対パスを入力した場合、コンテンツ管理サービスによってパスが <code>bin</code> ディレクトリに追加されます。</p>

## アドレス参照データのプリロードオプションに関するルールとガイドライン

アドレス参照データを読み取るマッピングを実行する場合、データ統合サービスがデータをメモリにロードするために使用するポリシーを確認します。ポリシーを設定するには、アドレス検証プロセスのプロパティの事前ロードオプションを使用します。アドレス検証マッピングの実行時に、データ統合サービスはコンテンツ管理サービスからプリロードオプションを読み取ります。

コンテンツ管理サービスでプリロードオプションを設定する場合は、以下のルールおよびガイドラインを考慮してください。

- デフォルトで、コンテンツ管理サービスは、データをプリロードしないことを示すオプションに `ALL` 値を適用します。デフォルトのオプションを受け入れる場合、データ統合サービスは、マッピングの実行時にアドレス参照データをディレクトリ構造から読み取ります。
- アドレス検証プロセスのプロパティでは、マッピングで指定するアドレス参照データの種類ごとにプリロード方法を指定する必要があります。データ統合サービスが参照データの種類に対するプリロードポリシーを決定できない場合、マッピングの実行時に参照データは無視されます。
- データ統合サービスは、国ごとに異なる方法でデータをロードすることができます。例えば、米国の提案リストデータに完全プリロードを指定し、英国の提案リストデータに部分プリロードを指定することができます。
- データ統合サービスはデータの種類ごとに異なるプリロード方法を使用することができます。例えば、米国のバッチデータに完全プリロードを指定し、米国の住所コードデータに部分プリロードを指定することができます。
- 完全プリロードの設定は、部分プリロードの設定よりも優先され、部分プリロードの設定は、データのプリロードをしない設定よりも優先されます。

例えば、以下のオプションを設定できます。

Full Pre-Load Geocoding Countries: DEU

No Pre-Load Geocoding Countries: ALL



このオプションは、データ統合サービスがドイツの地理的コーディングのデータをメモリにロードし、それ以外の国の地理的コーディングのデータはロードしないように指定します。

- データ統合サービスで、アドレス検証プロセスのプロパティに指定するアドレス参照データの種類をロードします。データ統合サービスでは、マッピングが指定するアドレス参照データを識別するマッピングメタデータを読み取りません。

## アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細プロパティ

アドレスバリデータトランスフォーメーションの詳細プロパティに、トランスフォーメーションがアドレス参照データをどのように使用するかを決定するプロパティがあります。詳細プロパティを確認するには、Developer ツールでトランスフォーメーションを開きます。インストールしたアドレス参照データに対し、詳細プロパティが必要な動作を定義しているかを確認します。

### エイリアスの市区町村

アドレス検証で有効な市区町村のエイリアスを公式な市区町村名に置き換えるかどうかを決定します。

市区町村のエイリアスは、米国郵政公社が配達可能なアドレスの要素として認識する、市区町村の代替名です。このプロパティは、アドレスバリ Data Transformation を設定して米国のアドレスレコードを認証モードで検証する場合に使用できます。

以下の表に、エイリアスの市区町村のオプションを示します。

オプション	説明
オフ	[エイリアスの市区町村] プロパティを無効にします。
公式	任意の代替市区町村名または市区町村のエイリアスを公式な市区町村名に置き換えます。デフォルトのオプションです。
維持	有効な市区町村の代替名または市区町村のエイリアスを維持します。入力した市区町村名が有効でない場合、アドレス検証はその名前を公式名に置き換えます。

### エイリアス番地

アドレス検証で通りのエイリアスを通りの公式名に置き換えるかどうかを決定します。

通りのエイリアスは、米国郵政公社が配達可能なアドレスの要素として認識する、通りの代替名です。このプロパティは、アドレスバリ Data Transformation を設定して米国のアドレスレコードを認証モードで検証する場合に使用できます。

以下の表に、エイリアス番地のオプションを示します。

オプション	説明
オフ	プロパティを適用しません。
公式	通りの代替名または通りのエイリアスを通りの公式名に置き換えます。デフォルトのオプションです。
維持	有効な通りの代替名または通りのエイリアスを維持します。入力した通りの名前が有効でない場合、アドレス検証はその名前を公式名に置き換えます。

## 大文字小文字表記

トランスフォーメーションによって出力アドレスデータに適用される大文字小文字の表記を指定します。

以下の表に、大文字小文字表記のオプションを示します。

オプション	説明
パラメータの割り当て	定義したパラメータを使用して、大文字小文字表記を設定します。
小文字	出力住所を小文字で書き込みます。
混在	可能な場合、宛先の国で使用されている大文字小文字表記を使用します。
維持	住所参照データで使用されている大文字小文字表記を適用します。デフォルトのオプションです。
変更なし	大文字小文字表記は住所に適用されません。 <b>注:</b> <b>【変更なし】</b> オプションは、出力住所が入力住所の大文字小文字に一致することを保証しません。アドレス検証によりアドレス要素が参照データの要素で置き換えられた場合、アドレス要素は参照データに使用される大文字小文字に従います。
大文字	出力住所を大文字で書き込みます。

大文字小文字表記は **【全般設定】** タブで設定することもできます。

### パラメータの使用

以下のいずれかのパラメータを使用して、大文字小文字表記を指定できます。

- LOWER. 出力住所を小文字で書き込みます。
- MIXED. 可能な場合、宛先の国で使用されている大文字小文字表記を使用します。
- NATIVE. 住所参照データで使用されている大文字小文字表記を適用します。デフォルトのオプションです。  
**【維持】** オプションに一致します。
- NOCHANGE. 大文字小文字表記は住所に適用されません。
- UPPER. 出力住所を大文字で書き込みます。

パラメータ値を大文字で入力します。

## 国

アドレスレコードが郵送される国を識別します。

リストから国を選択します。このプロパティは、デフォルトでは空になっています。

## 国のタイプ

完全なアドレスまたはフォーマットされたアドレス行のポート出力データの国名または略語の形式を決定します。トランスフォーメーションは、選択した国の標準の形式で国名や略語を表記します。

以下の表に、国のタイプのオプションを示します。

オプション	国
ISO2	ISO の 2 文字の国コード
ISO3	ISO の 3 文字の国コード
ISO #	ISO の 3 桁の国コード
略語	(将来の使用のために予約されています)
CN	カナダ
DA	(将来の使用のために予約されています)
DE	ドイツ
EN	英国 (デフォルト)
ES	スペイン
FI	フィンランド
FR	フランス
GR	ギリシア
IT	イタリア
JP	日本
HU	ハンガリー
KR	韓国
NL	オランダ
PL	ポーランド
PT	ポルトガル
RU	ロシア

オプション	国
SA	サウジアラビア
SE	スウェーデン

## デフォルトの国

アドレスレコードで宛先の国が識別されないときにトランスフォーメーションで使用するアドレス参照データセットを指定します。

リストから国を選択します。住所レコードに国情報が含まれる場合は、デフォルトオプションを使用します。デフォルトは「なし」です。

デフォルトの国は、**【全般設定】** タブで設定することもできます。

### パラメータの使用

パラメータを使用してデフォルトの国を指定することができます。パラメータを作成するときは、国の ISO 3166-1 alpha-3 コードをパラメータ値として入力します。パラメータ値は大文字で入力します。例えば、すべての住所レコードに国情報が含まれる場合は、NONE を入力します。

## 住所重複時の優先順位

検証するアドレスの種類を決定します。入力アドレスレコードに複数の種類の有効なアドレスデータが含まれるときにこのプロパティを設定します。

例えば、アドレスレコードに私書箱要素と番地要素の両方が含まれるときにこのプロパティを使用します。アドレス検証で、指定したアドレスデータの種類の含むデータ要素が読み込まれます。アドレス検証では、アドレスに含まれる互換性のないデータが無視されます。

次の表は、**【住所重複時の優先順位】** プロパティのオプションについて説明したものです。

オプション	説明
配送サービス	私書箱要素など、アドレスに含まれる配送サービスデータ要素を検証します。
郵政	ローカルの郵政事業者が必要とするアドレス要素を検証します。デフォルトのオプションです。
番地	住居番号や通りの名前など、アドレスに含まれる番地のデータ要素を検証します。

## 要素の略式表記

トランスフォーメーションでアドレス要素の略式表記を返すかどうかを決定します。アドレス参照データに略式表記が含まれる場合は、略式表記を返すようにトランスフォーメーションを設定できます。

例えば、United States Postal Service（米国郵政公社）は、多くの通り名や市区町村名の長い形式と短い形式を保持しています。HUNTSVILLE BROWNSFERRY RD の短い形式は HSV BROWNS FRY RD です。通り名や市区町村名が、米国郵政公社の定めるフィールド長の上限を上回る場合に、**【要素の略式表記】** プロパティを選択できます。

このオプションはデフォルトで選択されていません。略式表記のアドレス値を返すには、このプロパティを ON に設定します。トランスフォーメーションをパッチモードで使用すると、このプロパティは略式表記の市

区町村名と市区町村コードを返します。トランスフォーメーションを認証モードで使用すると、このプロパティは略式表記の通り名、市区町村名、市区町村コードを返します。

## 実行インスタンス数

データ統合サービスが、現在のトランスフォーメーションで実行時に作成するスレッドの数を指定します。データ統合サービスは、トランスフォーメーションを含むマッピングの「最大並行処理」ランタイムプロパティをオーバーライドする場合に、この実行インスタンス数の値を考慮します。デフォルトの実行インスタンス数の値は1です。

データ統合サービスでは、複数の要因を考慮して、トランスフォーメーションに割り当てるスレッド数を決定します。主要な要因は、実行インスタンス数の値と、マッピングおよびドメイン内の関連アプリケーションサービスの各値です。

データ統合サービスは、トランスフォーメーションに使用するスレッド数を計算する際に次の値を読み取ります。

- データ統合サービスの「最大並行処理」値。デフォルトは1です。
- マッピングレベルで設定された「最大並行処理」値。デフォルトは「自動」です。
- トランスフォーメーションの「実行インスタンス数」値。デフォルトは1です。

マッピングレベルの「最大並行処理」値をオーバーライドする場合、データ統合サービスは、上記の各プロパティの最低値を使用してスレッド数を決定します。

マッピングレベルでデフォルトの「最大並行処理」値を使用している場合、データ統合サービスは実行インスタンス数の値を無視します。

データ統合サービスは、作成するスレッドの数を計算する際に、コンテンツ管理サービスの「最大アドレスオブジェクト数」プロパティも考慮します。「最大アドレスオブジェクト数」プロパティは、マッピング内で同時に実行できるアドレス検証インスタンスの最大数を決定します。「最大アドレスオブジェクト数」プロパティの値は、データ統合サービスの「最大並行処理」の値以上である必要があります。

### 「実行インスタンス数」プロパティのルールおよびガイドライン

実行インスタンスの数を設定する際は、以下のルールとガイドラインを考慮します。

- 複数のユーザーがデータ統合サービスに同時にマッピングを実行することがあります。正しいスレッド数を計算するには、データ統合サービスがアクセスできるCPU数を同時実行マッピング数で除算します。
- PowerCenter では、*AD50.cfg* 構成ファイルで、マッピング内で同時に実行できるアドレス検証インスタンスの最大数を指定します。
- デフォルトの「実行インスタンス数」値およびデフォルトの「最大並行処理」値を使用する場合、トランスフォーメーション操作はパーティション化できません。
- 1より大きい実行インスタンス値を設定する場合は、アドレスバリデータトランスフォーメーションをパッシブトランスフォーメーションからアクティブトランスフォーメーションに変更します。

## フレキシブル範囲拡大

「拡大する範囲」プロパティを設定したときにアドレスバリデータトランスフォーメーションが返すアドレスの数に実際的な制限を与えます。提案リストモードで実行するようにトランスフォーメーションを設定するときに「拡大する範囲」プロパティと「フレキシブル範囲拡大」プロパティを設定できます。

「拡大する範囲」プロパティにより、入力アドレスに住居番号データが含まれないときにトランスフォーメーションがアドレス提案を返す方法が定義されます。入力アドレスに、完全な郵便番号など、コンテキストデータが含まれない場合、「拡大する範囲」プロパティにより非常に似ているアドレスを大量に生成できます。「フレキシブル範囲拡大」プロパティは、「拡大する範囲」プロパティが1つのアドレスに生成するアドレスの数を制

限します。[拡大する範囲] プロパティを [すべて] に設定するとき、[フレキシブル範囲拡大] プロパティを [オン] に設定します。

次の表は、[フレキシブル範囲拡大] プロパティのオプションをまとめたものです。

オプション	説明
オン	アドレス検証は、[拡大する範囲] プロパティが提案リストに追加するアドレスの数を制限します。デフォルトのオプションです。
オフ	アドレス検証は、[拡大する範囲] プロパティが提案リストに追加するアドレスの数を制限しません。

**注:** アドレスバリデータトランスフォーメーションは、それが提案リストに返すアドレスごとに異なる方法で [フレキシブル範囲拡大] プロパティを適用します。トランスフォーメーションは、リストの拡大アドレスの数の固定の制限を適用しません。トランスフォーメーションはまた、リストに含める拡大アドレスの数を計算するとき、[最大結果カウント] プロパティを考慮します。

## Geocode データ型

アドレスバリデータトランスフォーメーションがアドレスの Geocode データを計算する方法を決定します。Geocode は緯度と経度の座標です。

以下のいずれかのジオコードオプションを選択することができます。

### 到着点

建物または区画の入り口の緯度と経度の座標を返します。デフォルトのオプションです。

以下の国の住所では、到着点オプションを選択できます。

オーストラリア、オーストリア、カナダ、クロアチア、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、イタリア、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルクセンブルグ、メキシコ、モナコ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、スロバキア、スロベニア、スウェーデン、スイス、および米国。

到着点ジオコードを指定し、アドレスバリデータトランスフォーメーションが住所のジオコードを返せない場合、トランスフォーメーションは挿入ジオコードを返します。

### 区画の中心

区画の地理的な中心の緯度と経度の座標を地表レベルで返します。

以下の国の住所では、区画の中心オプションを選択できます。

オーストリア、カナダ、デンマーク、フィンランド、ドイツ、ハンガリー、ラトビア、ルクセンブルク、オランダ、ノルウェー、スロベニア、スウェーデン、および米国。

区画の中心ジオコードを指定し、アドレスバリデータトランスフォーメーションが住所のジオコードを返せない場合、トランスフォーメーションはジオコードデータを返しません。

### ルーフトップ

メールボックスが含まれる建物の物理的な中心を識別する緯度と経度の座標を返します。アドレスバリデータトランスフォーメーションは、アイルランドと英国の住所のルーフトップ座標を返します。

ルーフトップジオコードを指定し、アドレスバリデータトランスフォーメーションが住所のジオコードを返せない場合、トランスフォーメーションはジオコードデータを返しません。

## 標準

建物または区画の入り口の推定される緯度と経度の座標を返します。推定されるジオコードは挿入ジオコードとも呼ばれます。

アドレスバリデータトランスフォーメーションは、参照データに登録されている最寄りのジオコードを使用して、住所のジオコードを推定します。

## パラメータの使用

パラメータを使用して geocode 型を指定できます。ARRIVAL\_POINT、PARCEL\_CENTROID、または NONE を入力します。標準ジオコードを返すには、NONE を入力します。

パラメータ値を大文字で入力します。

# グローバル最大フィールド長

アドレスの行の最大文字数を決定します。指定した以上の文字を含む出力アドレス行を書き込む場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションは行のアドレス要素を短縮します。

このプロパティを使用し、アドレスの行の長さを制御します。例えば、SNA 基準の場合、アドレスの行に 38 文字を超える文字を含めることはできません。SNA 基準でアドレスを生成する場合、[グローバル最大フィールド長] を 38 に設定します。

デフォルトは 1024 です。

## パラメータの使用

パラメータを使用してアドレスの最大数を指定することができます。パラメータ値を設定するには、0 から 1024 の整数を入力します。

# グローバル優先記述子

アドレスバリデータトランスフォーメーションが出力データに書き込む建物の記述子、棟の記述子、および番地の記述子の形式を決定します。宛先の国のアドレス参照データに 1 つ以上のデータ要素に対する一連の記述子が含まれる場合は記述子を選択します。

以下の表に、このプロパティのオプションを示します。

オプション	説明
データベース	参照データベースがアドレスの要素に指定する記述子を返します。データベースによってアドレスの記述子が指定されていない場合、トランスフォーメーションは入力値を出力アドレスにコピーします。 Database がデフォルト値です。
完全表記	Street などのように、記述子の完全な形式を返します。
入力の維持	入力アドレスから出力アドレスに記述子をコピーします。 入力記述子が有効なバージョンではない場合、トランスフォーメーションは参照データベースから同等の有効な記述子を返します。
略式表記	St などのように、記述子の略式表記を返します。

## 入力形式の種類

フィールド化されていない入力データに含まれる最も一般的な情報の種類を示します。[入力形式の種類] プロパティは、入力データを住所の正式表記やフォーマットされたアドレス行ポートに接続する場合に使用します。マッピングソリューションでの情報を最も適切に表すオプションを選択します。

次のいずれかのオプションを選択します。

- すべて
- 住所
- 組織
- 担当者
- 組織/担当者  
アドレスには組織情報と担当者情報が含まれます。
- 組織/部署  
アドレスには組織情報と部署情報が含まれます。

デフォルトは「すべて」です。

## 国を含む入力形式

入力に国のデータが含まれるかどうかを指定します。このプロパティは、入力データを「住所の正式表記」または「フォーマットされたアドレス行」ポートに接続する場合で、そのデータが国情報を含む場合に選択します。

このオプションはデフォルトで選択されていません。

## 行セパレータ

フォーマットされたアドレスの改行を示す区切り記号を指定します。

次のいずれかのオプションを選択します。

- パラメータを割り当てて行セパレータを識別する
- キャリッジリターン (CR)
- カンマ
- ラインフィード (LF)
- なし
- セミコロン
- タブ
- Windows 改行 (CRLF)

デフォルトは「セミコロン」です。

行セパレータは、[全般設定] タブで設定することもできます。

### パラメータの使用

パラメータを使用して行セパレータを指定することができます。パラメータ値は大文字と小文字が区別されます。パラメータ値は大文字で入力します。

次のいずれかの値を入力します。

- CR



- CRLF
- COMMA
- LF
- PIPE
- SEMICOLON
- SPACE
- TAB

## 一致する代替用語

アドレス検証が入力アドレスにある代替の場所の名前（例えば同義語や歴史名など）を認識するかどうかを決定します。このプロパティは、通り、市区町村、および地方のデータに適用されます。

**注:** [一致する代替用語] プロパティは、検証されたアドレスにある代替名を維持しません。

以下の表に、一致する代替用語のオプションを示します。

オプション	説明
すべて	通りおよび場所のすべての既知の代替名を認識します。デフォルトのオプションです。
アーカイブのみ	歴史名のみ認識します。例えば、「Constantinople」を「Istanbul」の古い呼称として検証します。
なし	通りや場所の代替名を認識しません。
同義語のみ	同義語およびエクソニム（外名）のみ認識します。例えば、「Londres」を「London」のエクソニム（外名）として検証します。

## 拡張アーカイブのマッチング

アドレス検証で、古くなった日本のアドレスに対する一意のデリバリポイントコードが返されるかどうかを決定します。

日本のアドレス参照データファイルには、対応するメールボックスの現在のアドレスと共に、古くなった住所または使用されなくなった住所のデータが格納されています。[拡張アーカイブのマッチング] プロパティを選択した場合は、アドレス検証で現在バージョンの各住所のデリバリポイントコードが返されます。また、入力した住所が古くなっていることを示す値も、アドレス検証によって [拡張要素の結果ステータス] ポートに書き込まれます。

アドレス参照データから現在のアドレスを取得するには、入力要素としてアドレスコードを入力します。

次の表に、拡張アーカイブのマッチングのオプションを示します。

オプション	説明
オフ	プロパティを適用しません。
オン	古くなった日本のアドレスの現在バージョンのアドレスコードを返します。

日本の場合、[拡張アーカイブのマッチング] プロパティには補足データおよびアドレスコードルックアップデータが使用されます。アドレス検証でこのプロパティを適用するには、アドレスコードルックアップモードで実行されるようにトランスフォーメーションを設定します。

## 一致するスコープ

トランスフォーメーションがアドレス検証中にアドレス参照データに対して一致させるデータ量を決定します。以下の表に、一致するスコープのオプションを示します。

オプション	説明
すべて	すべての選択されたポートを検証します。デフォルトのオプションです。
納入場所	[番地] オプションで検証されるデータに加え、建物および棟のデータを検証します。
市区町村	都道府県、市区町村、および郵便番号のデータを検証します。
番地	[市区町村] オプションで検証されるデータに加え、番地アドレスデータを検証します。

## 最大結果カウント

アドレス検証が提案リストモードで返すことができるアドレスの最大数を決定します。

1 から 100 の範囲で最大数を設定できます。デフォルトは 20 です。

**注:** 提案リストモードは、アドレス参照データに対してアドレスチェックを実行し、入力アドレスに一致する可能性のあるアドレスのリストを返します。提案リストモードのアドレスを検証すると、アドレス検証は最も一致するものを最初に返します。

### パラメータの使用

パラメータを使用してアドレスの最大数を指定することができます。パラメータ値を設定するには、0 から 100 の整数を入力します。

## モード

トランスフォーメーションが実行するアドレス分析の種類を決定します。トランスフォーメーションの[全般設定] タブでモードを設定することもできます。

次の表は、モードメニューオプションとそれに対応する設定可能なパラメータ値をまとめたものです。

モードの種類	説明
アドレスコードのルックアップ	入力としてアドレスコードを提供すると、参照データから部分的なアドレスまたは完全なアドレスを返します。いくつかの国は、アドレスの番地、建物、または一意のメールボックスを表すアドレスコードをサポートします。
バッチ	データセットのレコードにアドレス検証を実行します。バッチ検証では、アドレスの完全性と配達可能性に焦点を合わせます。バッチモードは、品質が低いアドレスの提案を返しません。バッチはデフォルトのモードです。

モードの種類	説明
認証	データセットのレコードにアドレス検証を実行します。認証基準では、各アドレスが一意のメールアドレスを識別することが必要です。認証済みのアドレス検証は、オーストラリア、フランス、ニュージーランド、イギリス、および米国で実行できます。
国認識	郵便アドレスの宛先の国を特定します。トランスフォーメーションは、国認識モードでアドレス検証を実行しません。
対話型	不完全な有効アドレスを完成します。不完全な入力アドレスが参照データの複数のアドレスに一致すると、トランスフォーメーションは「最大結果カウント」に指定されている制限に到達するまで、すべての有効なアドレスを返します。
解析	アドレスのフィールドにデータを解析します。トランスフォーメーションは、解析モードでアドレス検証を実行しません。
提案リスト	入力アドレスに断片的な情報が含まれる場合に、参照データから有効なアドレスのリストを返します。アドレスの断片が参照データの複数のアドレスに一致すると、トランスフォーメーションは「最大結果カウント」に指定されている制限に到達するまで、すべての有効なアドレスを返します。

## 最適化レベル

トランスフォーメーションが入力アドレスデータとアドレス参照データを照合する方法を決定します。このプロパティは、トランスフォーメーションが住所レコードを更新する前に、入力データと参照データの間に照合のタイプを指定します。

以下の表に、最適化レベルのオプションを示します。

オプション	説明
低	トランスフォーメーションは、検証を行う前に番地情報から建物番号または住居番号を解析します。あるいは、入力ポート構造に従って入力アドレス要素を厳密に検証します。低オプションは、アドレス検証を最速で実行しますが、他のオプションよりも精度が低下する場合があります。
標準	トランスフォーメーションは検証を行う前に、入力データから複数の種類の住所情報を解析します。標準オプションを選択すると、トランスフォーメーションは複数の入力値と参照データを一致させることができる場合にアドレスを更新します。 デフォルトは「標準」です。
高	トランスフォーメーションは標準解析設定を使用し、入力データ全体に対して追加の解析処理を実行します。高オプションを選択すると、トランスフォーメーションは少なくとも1つの入力値と参照データを一致させることができる場合にアドレスを更新します。高オプションではマッピングの実行時間が増加します。

## パラメータの使用

パラメータを使用して最適化レベルを指定することができます。NARROW、STANDARD、またはWIDEを入力します。パラメータ値を大文字で入力します。

## 出力形式の種類

完全アドレスまたはフォーマットされたアドレス行の出力ポートにトランスフォーメーションで書き込む情報の最も一般的な種類を示します。出力ポートに書き込む情報を示すオプションを選択します。

次のいずれかのオプションを選択します。

- すべて
- 住所
- 組織
- 担当者
- 組織/担当者  
アドレスには組織情報と担当者情報が含まれます。
- 組織/部署  
アドレスには組織情報と部署情報が含まれます。

デフォルトは「すべて」です。

## 国を含む出力形式

トランスフォーメーションで完全アドレスまたはフォーマットされたアドレス行の出力ポートに国識別データを書き込むかどうかを決定します。

このオプションはデフォルトで選択されていません。

## 優先される言語

参照データセットにデータが複数の言語で含まれている場合、アドレスバリデータトランスフォーメーションがアドレス要素を返す際の言語を決定します。ベルギー、カナダ、中国、フィンランド、香港、アイルランド、マカオ、スイス、台湾の住所には、優先される言語を設定することができます。

アドレスバリデータトランスフォーメーションは、次の言語でアドレスデータを返すことができます。

- アドレス参照データの住所のデフォルト言語。デフォルト言語は、各住所が属する地域で話されている主要言語です。
- 住所に対してアドレス参照データでサポートされている他の言語。例えば、ベルギーの参照データには、フラマン語、フランス語、およびドイツ語のアドレス要素が含まれます。

アドレス参照データは、1つのアドレス要素のデータや住所の正式表記のデータが複数の言語で記述されている場合があります。例えば、アドレス検証はアイルランドのすべてのアドレス要素を英語で返すことや、番地、市区町村、および県の情報をアイルランド語で返すこともできます。さらに、アドレス参照データは、1つの国のさまざまな地域の住所に対して異なるデフォルト言語を指定する場合があります。例えば、スイスの参照データのデフォルト言語は地域ごとに異なり、フランス語、ドイツ語、イタリア語に分かれます。

次の表に、[優先される言語] プロパティで選択できるオプションについて説明します。

オプション	説明
データベース	アドレス参照データで指定される言語で各住所を返します。アドレス参照データでは、国の中の地域によって住所に異なる言語が指定されていることがあります。 [データベース] はデフォルトのオプションです。
代替 1、 代替 2、 代替 3	参照データの代替言語で住所要素を返します。代替言語は、住所が属する国によって異なります。
英語	参照データに英語のデータが含まれる場合、アドレス要素を英語で返します。他の住所要素は、住所が属する地域のデフォルト言語で返します。
入力の維持	入力された住所で使用される言語で各住所を返します。 アドレス参照データに入力言語による住所が含まれる場合、トランスフォーメーションは、その入力言語を保持します。

**注:** 各アドレス参照データセットには、一部の住所要素だけがデフォルトではない言語で記録されていることがあります。プロパティで指定されている言語で記録された要素を見つけることができない場合、トランスフォーメーションはデフォルト言語で記録された要素を返します。

優先される言語オプションを設定したら、[優先されるスクリプト] プロパティで指定した文字セットが想定の実出力アドレスデータと互換性があることを確認してください。

### ベルギーの住所向けの多言語サポート

次の表は、ベルギーの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。住所が属する地域の主要言語で住所を返します。言語はフランドル語、フランス語またはドイツ語です。
英語	住所参照データに英語の情報が含まれている場合、州、市区町村、および通りの情報を英語で返します。 その他の住所要素を住所が属する地域の主要言語で返します。
代替 1	フランドル語で州、市区町村、および通りの情報を返します。
代替 2	フランス語で州、市区町村、および通りの情報を返します。
代替 3	ドイツ語で州、市区町村、および通りの情報を返します。
入力の維持	入力された住所が使用している言語で住所を返します。 アドレス参照データに入力言語で住所が含まれている場合、トランスフォーメーションはその言語を維持します。入力アドレスに複数の言語が含まれている場合、トランスフォーメーションはデータベース言語で出力を返します。

## カナダの住所向けの多言語サポート

次の表は、カナダの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。ケベックを除くすべての州については英語で住所を返します。 ケベック州の住所はフランス語で返します。
英語	すべての住所を英語で返します。
代替 1	すべての住所を英語で返します。
代替 2	ケベック州の住所はフランス語で返します。 ケベック以外の州では、トランスフォーメーションは通りの記述子、方位情報、および州名をフランス語で返し、でその他の住所要素を英語で返します。
入力の維持	入力言語の住所を返します。

## 中国の住所の多言語サポート

次の表は、中国の住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。すべての住所情報を中国語で返します。
英語	通りの記述子および方位の値を英語で返します。他のすべての住所情報を中国語で返します。 英語の住所要素では、市 (shi) などの翻字要素は省略されます。
代替 1	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
代替 2	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
代替 3	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
入力の維持	入力言語で住所を返します。 トランスフォーメーションが入力言語で要素を返すことができない場合は、データベース言語で要素を返します。

優先言語を選択するときは、次の規則とガイドラインを考慮してください。

- 中国語で住所を返すには、[データベース]、[代替 1]、[代替 2]、または [代替 3] を選択します。  
中国語の文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [データベース] に設定します。
- 英語で通りの記述子と通りの方位情報を返すには、[英語] を選択します。  
ラテン語または ASCII 文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [ラテン] または [ASCII] に設定します。
- 優先するスクリプトに [ラテン] または [ASCII] を選択し、優先する言語として [データベース] を選択した場合、アドレス検証はピンインで住所データを返します。

## フィンランドの住所向けの多言語サポート

次の表は、フィンランドの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。フィンランド語ですべての住所情報を返します。
代替 1	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
代替 2	通り、市区町村、および州の情報をスウェーデン語で返します。その他すべての情報をフィンランド語で返します。
入力の維持	入力言語で住所情報を返します。 トランスフォーメーションが入力言語で要素を返すことができない場合は、データベース言語で要素を返します。

## 香港の住所向けの多言語サポート

次の表は、香港の住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。すべての住所情報を中国語で返します。
英語	すべての住所情報を英語で返します。
代替 1	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
代替 2	すべての住所情報を英語で返します。
代替 3	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
入力の維持	入力言語で住所情報を返します。 トランスフォーメーションが入力言語で要素を返すことができない場合は、データベース言語で要素を返します。

香港の優先言語を選択するときは、次の規則とガイドラインを考慮してください。

- 中国語の文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [データベース] に設定します。
- ラテン語または ASCII 文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [ラテン] または [ASCII] に設定します。
- 入力データの言語は、香港の住所に対する [入力の維持] オプションの動作に影響します。入力データが 7 ビット ASCII 文字を使用し、英語の記述子を含んでいる場合、アドレス検証は入力言語を英語として識別します。

## アイルランドの住所の多言語サポート

次の表は、アイルランドの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。すべての住所情報を英語で返します。
英語	すべての住所情報を英語で返します。
代替 1	すべての住所情報を英語で返します。
代替 2	通り、市区町村、および州の情報をアイルランド語で返します。他のすべての住所情報を英語で返します。
入力の維持	入力言語で住所を返します。

## マカオの住所向けの多言語サポート

次の表は、マカオの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。すべての住所情報を中国語で返します。
代替 1	すべての住所情報をデータベース言語で返します。
代替 2	すべての住所情報をポルトガル語で返します。
入力の維持	入力言語で住所情報を返します。 アドレス参照データベースに入力言語で住所が含まれている場合、トランスフォーメーションはその言語を維持します。

- 中国語の文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [データベース] に設定します。
- ラテン語または ASCII 文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] プロパティを [ラテン] または [ASCII] に設定します。
- 入力データの言語は、マカオの住所の [入力の維持] オプションの動作に影響することがあります。入力データが 7 ビット ASCII 文字を使用し、ポルトガル語の記述子を含んでいる場合、アドレス検証は入力言語をポルトガル語として識別します。



## スイス向けの多言語サポート

次の表は、スイスの住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。住所が属する地域の主要言語で住所を返します。 たとえば、チューリッヒの住所はドイツ語で、ジュネーブの住所はフランス語で返されます。
英語	参照アドレスデータベースに英語で情報が含まれている場合は、市区町村と州の情報を英語で返します。 その他の住所要素を住所が属する地域の主要言語で返します。 ジュネーブやチューリッヒなどの一部の地域については市区町村情報を英語で返します。
代替 1	州、市区町村の情報をドイツ語で返します。
代替 2	州、市区町村の情報をフランス語で返します。
代替 3	州、市区町村の情報をイタリア語で返します。
入力の維持	入力された住所が使用している言語で住所を返します。 アドレス参照データベースに入力言語で住所が含まれている場合、アドレス検証はその言語を保持します。入力アドレスに複数の言語が含まれている場合、アドレス検証はデータベース言語で出力を返します。

**注:** ビール/ピエンヌの住所の通り情報は、設定した代替言語でも返されます。

## 台湾向けの多言語サポート

次の表は、台湾の住所に対して指定できる言語を示しています。

オプション	説明
データベース	デフォルト値。すべての住所情報を中国語で返します。
英語	すべての住所情報を英語で返します。
入力の維持	入力言語で住所情報を返します。アドレス検証が入力言語で要素を返すことができない場合は、データベース言語で要素を返します。

優先言語を選択するときは、次の規則とガイドラインを考慮してください。

- 中国語の文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] パラメーターを [データベース] に設定します。
- ラテン語または ASCII 文字セットで住所を返すには、[優先するスクリプト] パラメーターを [ラテン] または [ASCII] に設定します。
- 入力データの言語は、台湾の住所の [入力の維持] オプションの操作に影響することがあります。入力データが 7 ビット ASCII 文字を使用し、英語の記述子を含んでいる場合、アドレス検証は入力言語を英語として識別します。

## 優先されるスクリプト

アドレスバリデータトランスフォーメーションが出力データに使用する文字セットを決定します。

以下の表に、このプロパティのオプションを示します。

オプション	説明
ASCII（簡易）	住所を ASCII 文字で返します。
ASCII（拡張）	住所を ASCII 文字で返し、住所内の特殊文字を展開します。例えば、Ö は OE に置き換えられます。
データベース	アドレス参照データがデフォルト言語に使用する文字セットで住所を返します。 デフォルト値は「データベース」です。
ラテン	ラテン文字セットで住所を返します。
ラテン（代替）	代替のラテン文字セットで住所を返します。 たとえば、文化観光部の翻字で韓国の住所を返すには、「ラテン」を指定します。より古い ISO/TR 11941 方式の翻字で韓国の住所を返すには、「ラテン（代替）」を指定します。
郵政	住所が所属する地域の郵政で優先される文字で住所を返します。
郵政（代替）	住所が所属する地域の郵政が代替文字として承認している文字で住所を返します。
入力維持	入力アドレスで使用する文字セットでアドレスデータを返します。

トランスフォーメーションは、複数の言語および文字セットのデータを含むデータソースを処理できます。トランスフォーメーションはすべての入力データを Unicode UCS-2 文字セットに変換し、データを UCS-2 形式で処理します。データを処理した後、トランスフォーメーションは各住所レコードのデータをプロパティで指定した文字セットに変換します。このプロセスは「翻字」と呼ばれます。

文字を変換する際、翻字では、文字セットの各文字に対応する数値表現（コード）を使用できます。また、対応する数値表現がない文字の場合は、音写変換することもできます。アドレスバリデータトランスフォーメーションが文字を UCS-2 にマップできない場合、文字はスペースに変換されます。

**注:** トランスフォーメーションの優先言語または優先文字を更新する場合は、選択した言語と文字コードが互換性があることを確認してください。

## 拡大する範囲

住居番号を指定しない番地に対してアドレスバリデータトランスフォーメーションで提案住所を返すかどうかを決定します。トランスフォーメーションを提案リストモードで実行するときにこのプロパティを使用します。

アドレスバリデータトランスフォーメーションは、提案リストモードで部分的または不完全な番地を読み込みます。トランスフォーメーションはその住所とアドレス参照データを比較し、類似したすべてのデータをエンドユーザーに返します。入力アドレスに住居番号が含まれない場合、トランスフォーメーションは番地に対して 1 つまたは複数の住居番号提案を返すことができます。「拡大する範囲」プロパティにより、トランスフォーメーションがアドレスを返す方法が決定されます。

トランスフォーメーションは 1 つのアドレスで有効な住居番号の範囲を返すことができます。あるいは、有効な住居番号ごとにアドレスを返すことができます。トランスフォーメーションは、番地の最小の住居番号から最高の住居番号までの範囲にある番号ごとにアドレスを返すこともできます。

以下の表に、このプロパティのオプションを示します。

オプション	説明
すべて	アドレス検証で、番地の考えられる住居番号の範囲で、すべての住居番号に対して提案アドレスを返します。
なし	アドレス検証は、番地の有効範囲にある最小の住居番号と最高の住居番号を識別する 1 つのアドレスを返します。
有効な項目があるもののみ	アドレス検証は、アドレス参照データが配達可能として識別する住居番号ごとに提案アドレスを返します。

**注:** 提案リストモードでは、アドレスの他の要素を使用し、番地の有効範囲を指定できます。例えば、ZIP コードにより、アドレスメールボックスを含む市のブロックを識別できる場合があります。アドレスバリデータトランスフォーメーションでは ZIP コードを使用し、ブロックの最小および最高の住居番号を識別できます。

トランスフォーメーションで実際の限度内で住居番号範囲を決定できない場合、提案アドレスの番号は使用できないサイズまで増加できます。[拡大する範囲] プロパティで生成されるアドレスの数を制限するには、[フレキシブル範囲拡大] プロパティを [オン] に設定します。

## 無効なアドレスの標準化

アドレス検証プロセスで配送不可能なアドレスのデータ値を標準化するかどうかを決定します。このプロパティは、I1~I4 の範囲で照合コードのステータスを返すアドレスレコードに適用します。

データを標準化すると、後続のデータ処理で正確な結果が返される可能性が高くなります。例えば、2 つの住所レコードが同じ形式で共通の住所要素を表している場合、重複分析マッピングの一致スコアが高くなる可能性があります。

アドレス検証では、次のアドレス要素を標準化できます。

- road や boulevard など、通りのサフィックス要素。
- north、south、east、west など、前後の方角要素。
- 私書箱などの配達サービス要素。
- apartment、floor、suite など、棟要素。
- 都道府県の名前。標準化により、名前の短縮形が返されます。

以下の表に、このプロパティのオプションを示します。

オプション	説明
オフ	アドレス検証はデータエラーを修正しません。デフォルトのオプションです。
オン	アドレス検証はデータエラーを修正します。

## パラメータの使用

データエラーの標準化ポリシーを指定するパラメータを割り当てることができます。パラメータ値として OFF または ON を入力します。値は大文字で入力します。

## トレースレベル

ログに含まれる詳細の量を設定します。

ログに表示するトレースレベルを設定できます。

【詳細】タブでは、以下のプロパティを設定します。

### トレースレベル

このトランスフォーメーションのログに表示される情報の詳細度。Terse、Normal、Verbose Initialization、Verbose data から選択できます。デフォルトは [Normal] です。

## アドレス参照データファイルのステータス

Developer ツールを使用して、ドメイン上のアドレス参照データファイルのステータスを確認します。ステータス情報には、各ファイルのライセンスの有効期限やそのファイルに対して実行可能な処理の種類が含まれています。

アドレス参照データファイルのステータスを確認するには、Developer ツールの【設定】ウィンドウを使用します。【設定】ウィンドウの【コンテンツのステータス】オプションを使用してステータスを確認します。

以下の表に、【コンテンツのステータス】を選択したときにデフォルトで表示される、ステータスのプロパティを示します。

プロパティ	説明
国の ISO	アドレス参照データファイルが適用される国。このプロパティは、ISO による 3 文字の国名の略記を表します。
有効期限	ファイルが新しいファイルに置き換えられる日付。有効期限後にもアドレス参照データファイルは使用できますが、そのデータ正確性は保証されません。
国のタイプ	そのデータに対して実行可能な住所の処理のタイプ。【全般設定】タブの【モード】オプションで処理のタイプを選択できます。選択したモードがドメイン上のアドレスデータファイルと対応しない場合、アドレス検証マッピングは失敗します。
有効期限のロック解除	ファイルのライセンスの有効期限が切れる日付。有効期限のロック解除後はファイルを使用できません。
開始日のロック解除	ファイルのライセンスが有効になる日付。開始日のロックを解除する前はファイルを使用できません。

プロパティテーブルを右クリックすると、追加のプロパティのリストが表示されます。

# 索引

## I

IBM DB2 データベースの要件  
参照データウェアハウス [14](#)

## M

Microsoft SQL Server データベースの要件  
参照データウェアハウス [15](#)

## O

Oracle データベースの要件  
参照データウェアハウス [15](#)

## さ

参照データウェアハウス  
IBM DB2 データベースの要件 [14](#)  
Microsoft SQL Server データベースの要件 [15](#)  
Oracle データベースの要件 [15](#)